

より進化したシステムで…

2013年12月に遊文舎のワークフローシステムが大きく進化しました。

近年お客様のご要望が多様化し短納期化しています。また、遊文舎通販サイト“すぐスール”での受注も大幅に伸びています。そういった要素を精査し決定したシステムが富士フィルム様が提唱しているFUJIFILM WORKFLOW **xmf**です。

今回、**xmf**と同時に採用した物が完全現像レスの刷版（印刷機にセットする版）**XZ-R**です。

xmfって？

最大の特徴はいつでもどこでも誰もが同じ画面で進捗状況を確認できることです。

たとえばお客様が自社の製品の進捗を社内に居ながら確認出来たり、iPadのようなタブレットを使ってオンラインで校正指示を入れたり出来ます。これにより「出張や打ち合わせなどで移動が多い」「深夜しか時間がとれない」、また「離れたパートナーと同時進行を進めたい」など多忙なクライアント担当者様でも、インターネットで随時校正作業が行なえます。

また、3D技術で作成された冊子の仕上がりイメージをタブレットやパソコンを使って確認したり出来ます。もちろんページもめくれますよ！面白いと思いませんか？

ただ、現時点では完全なシステム構築が出来てませんので、すぐにご利用頂く事が出来ないのが残念です。システムが完全に使用可能になりましたらお知らせしますので今しばらくお待ち下さい。

以外の特徴は、やはりスピードアップが図れる事です。データ処理時間、刷版出力時間などが倍速ほどの速さになりました。また、出力データ作成も非常に柔軟な対応ができ、たとえば急な印刷機の変更などにもフレキシブルに対応可能です。

それ以外にもPDFデータの不備をチェックする機能やそのPDFを出力に安全なPDFに変換したりと様々な機能が充実しています。

その他、クライアント様にメリットのある内容としては**高精細300線の印刷が可能**になった事です。通常カラー印刷では175線という網を使いますが、300線の網で印刷すると点が小さい分めらかな仕上がりになります。

XZ-Rって？

“FUJIFILM WORKFLOW **xmf**”と同時に遊文舎では新しい印刷刷版“XZ-R”の導入を決めました。この刷版は完全な現像レスで現像液を使用しない非常に環境にやさしい刷版なのです。“現像レス”が言われはじめて5年ぐらいになります。当初、現像レス刷版で印刷すると汚れが発生したりトラブルの多いものでした。メーカーサイドでさえ「おすすめは出来ません」と言っていたぐらいです。その後改良が加えられ昨今ようやく実用に耐えられる版となったのです。とは言え多少導入の怖さもありました。導入当初は印刷現場も不慣れなため若干のトラブルはありましたが、メーカーの協力（指導）を受け今では何の問題も無く印刷出来るようになっていきます。環境汚染以外で現像しないメリットは何かと言うと印刷アミの再現が均一になると言う事です。現像液の状態によって左右され

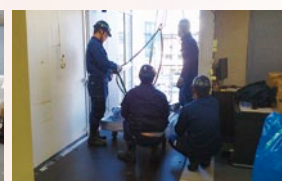
る網点のフレが無いのです。すなわち色再現も安定すると言う事になります。

デジタル印刷

以前より富士ゼロックスのColor1000Pressと言うカラーオンデマンド印刷機を導入していましたが、仕上がりが綺麗でクライアント様に好評で受注が大きく伸びたため一台では対応が難しくなり、この度二台目としてColor800Pressを導入しました。今後も増え続ける小ロット短納期にもより一層スムーズに対応できるようになりました。

今後もクライアント様の要望にお応え出来るように全社あげて努力を積み重ねていきますので末永くお付き合いいただければ幸いです。

（風帆）



搬入風景

私は古稀(70歳)近くなってから俳句を始め、いま夢中になっている。

2年ほど前に『薔薇の行方』という俳句集を印刷させていただいたご縁で、作者の大形順子先生に誘われ、それまでは俳句といえば「柿食えば鐘がなるなり法隆寺 子規」くらいしか知らなかったにもかかわらず、また初心者の気後れをものともせず、月1回の句会にいそいそと出かけている。

震災の報せテレビに春の行く 大形順子

『薔薇の行方』は句集というよりエッセイ集というほうが似合うような作品であり、大形先生の日々の暮らしのなかに生じる四季おりおりの風や光や生き物たちが心象風景として語られ、それらが五七五の十七音に昇華されていくプロセスが手に取るように分っている。俳句とはまったく無縁であった私の目からウロコが落ちたのである。

驚くことに89歳まで現役で眼科医を開業してこられた先生は、92歳の今もかくしゃくとして句会の首座を務められ、長年の句友の皆様もほとんどが80歳以上ということで、私など若者扱いしていただけるのも心穏やかに時を過ごせる一因になっている。



大形順子 『バラの行方』
2011年8月刊
160mm×188mm/170頁

コスモスに屈む大地の息吹かな 田口由子

先日、倉庫を見ていたら遊文舎でもいろいろな句集を作っているんだな、と見過ごしてきた迂闊を悔しく思った。なかでも制作Mさんの知人、田口由子さんによる『木守柿』には、感銘を受けた。

昭和56年から平成20年まで30年あまりの句に、お孫さんがふさわしいイラストを書きそえて、米寿のお祝いにと出版されたものである。彼女の「あとがき」は尊敬するお祖母さんの凜とした作句の姿勢、生きる姿勢を彷彿とさせる。

別の句集を豪華版で出版されたWさんは、「これは兄の日記だ」とおっしゃっていたが、本当に句には人の性(さが)がでてしまうものだ、と最近やっとその奥深さが分りかけてきたところである。



田口由子 『木守柿』
2012年10月刊
148mm×200mm/226頁

放哉の句碑に島柿熟るるまま 遊民

昨年は小豆島に旅行した際に尾崎放哉記念館を訪ねた。放哉といえば「咳をしてもひとり」が好きな句。また、今年は6月に新潟県に行くので、出雲崎の良寛記念館を訪ねるつもり。「散る桜残る桜も散る桜」は良寛の辞世の句であると言われるが、特攻隊の遺書によく引用されたことでも有名である。

このように旅先での楽しみが増えたことも余録である。

もうひとつ、いま「歌仙」なるものに取り組んでいる。友人と3人で、五七五の長句と七七の短句を36句まで順繰りに付けかつ離して、連ねていく言葉遊びである。

これは芭蕉が得意としたもので、ルールは色々あるが私達はあまり四角四面ではなく音楽にメールでやりとりして楽しんでいる。

時には自分の発想の貧困にガックリすることもあるが、「あなたはその程度やで」という内心の声に深く頷き、また格闘し、魅了される日々である。(遊民)



尾崎放哉記念館

遊文舎お弁当女子♪

今月一品

「超簡単!サクサクピリ辛唐揚げ」



作った人:TIARI

材料(約16個)

- 鶏ムネ肉 2枚(半解凍くらいが調理しやすい)
- A・コチュジャン お好みで(多いかな?くらいでちょうど)
- ・醤油 少量
- ・塩 少量
- ・コショウ 少量
- 片栗粉 適量

- ① 鶏ムネ肉を1cm幅くらいの薄切りにする。
- ② ビニール袋に切ったムネ肉とAを全部入れ、漬け込んでしばらく放置(放置時間なしでも可)。
- ③ ②に片栗粉を入れ、揉み込みながら衣をつける。
- ④ お肉が薄いので、油は2~3cmの深さがあれば十分。約180度に熱した油で揚げていく。それぞれ1分くらいで揚げあがるので、あとは盛りつけて完成!

編集後記

日に日に暖かくなって、春の訪れを感じます。桜の満開が待ち遠しい季節になりました。花より団子派の私は、お花見が楽しみで仕方ありません(笑)

今回の社員の趣味コーナーでは俳句をご紹介します。満開の桜の下、皆様も一句詠んでみてはいかがでしょうか。(みやまい)